

冒険と挑戦

バスターガバナー 宮脇 富

ロータリーの文献によく使われている言葉に Adventure とか Challenge というのがある。これらの言葉は普通、冒険、挑戦と邦訳されている。初めてロータリーの文献を読む人には異様な感を与えることがある。Adventure はその語源が“出来事”という意味のラテン語から出来たもので“出来事”とは“ふと起った事”であって予期したことではない。英辞典によると“危険との取組み”、“興奮と危険な行為”、“非現実性の感動”、“危険な企画”、“危険で興奮性の趣味”、“危険を犯す”等の場合用いられる言葉である。

Challenge は古い仏蘭西語から来たもので告げとか要求とか論争の意味を現わすために用いられたものである。英辞典によれば“確証の要求”、“問題を成立させる事”、“戦争や競争に挑む”、“要求”、“投票に対する異議”、“告訴”等の意義がある。そこで普通挑戦の意味に使われるようになったのである。

何れにしても直訳すると冒険及び挑戦ということになるので、至つて物騒な言葉である。斯様な物騒な言葉が何故ロータリーの如き友愛と平和のために奉仕せんとするものの文献に、斯くも無雑作に用いられているかという疑問が出て来るのである。それは文献を読む人の心を引きつけるためのようである。凡人人間には冒険心は多かれ少なかれ潜在しているもので、向上心のある処、好奇心のある処必ず一種の冒険が伴う、成功の裏には冒険が潜んでいる。小説マンチヨーゼン男爵の冒険とか、トムソーヤの冒険が広く愛読せられて

いるのは、人間の冒険への挑戦に対する好奇心の現われであろう。

ロータリーの重要文献の1つ、Adventure in Service には、ロータリアンになるということは、奉仕の冒険に入ることだといっている。奉仕の冒険とは、奉仕の途上に遭遇することのある色々な障害とか、予期せざる事態に勇敢に取り組むことであると、説明されている。

我々が奉仕といっている言葉はロータリーで使っている Service を邦訳したものである。此の言葉はラテン語の奴隷という言葉から来たものである。それが神に仕える崇高なる行為を意味するに至った。己を空しうして他人のために仕えるということは中々難しいものである。それ故に、敢えて奉仕の道に入ること冒険と唱える所以であろう。

ロータリアンはその奉仕の冒険に入った以上、遭遇することのある種々なる障害と戦わなければならない。それが挑戦として現われるのである。その挑戦は地域社会の色々な問題に対する回答、他人に対する寛恕や援助を一層有意義ならしめるものとして現われるのである。

ロータリーが拡大されればされる程、色々な障害及び予期せざる事態に当面するのは当然である。ロータリーは異った信仰とか背景を有する人々の間にも大きな調和のありうること、また共通の目標に向っての行動には如何なる相違相剋も良く奉仕の精神に溶け込んで解決出来るという前提の下に結成せ

られたものである。職業分類の原則に基いて色々な職業人が集ることによって、ロータリーは恰かも種々なる絛糸よりなる強靱な絛毯の如き耐久力と優美さをもつものである。それは個人個人の持っている勢力を団体的勢力とし、その結果は個々の力を合計した以上の一大勢力となしうるからである。共通の目標に向っては協同の動作ほど調和をもたらすものは他にはない。共同の努力は少数意見と多数意見の両者を統一し、友好を促がすことの出来るものである。茲にロータリーが奉仕という大冒険に挑戦して良く社会を明くし、世界の平和をかちとることが出来るのである。ロータリアンは何れも此の冒険に挑戦していればこそロータリーが今日の如く発展したのだが、これをここまで導いて来たのはポール・ハリスを始め初期の指導者及び歴代会長の努力の賜ではあるがこれを築き上げた功労は R I の初代幹事、後に事務総長と呼ぶようになったチェスリー R・ペリーであった。

チェスリー R・ペリー

ポール・ハリスはいつか。“若し自分がロータリーの設計者と称ばれる資格があるとすれば、チェス・ペリーは間違いなく国際ロータリーの建設者である”。真を穿った言葉である。彼のロータリー建設への功績は偉大なるハリスの陰に隠れていることが多い。若しペリーが居なかったならば今日のロータリーは望めなかったかも知れない。

チェス・ペリーは1908年1月、ハリ・ラッグルスの紹介で、シカゴ・ロータリークラブに入会したのであるが、彼は一貫してロータリーに接近し、ロータリー発展のため一生を捧げ、シカゴ・ロータリークラブの一会員として没した、ロータリーの大恩人である。

チェスリー・レーモンド・ペリーは生粋の

シカゴアンで、1872年9月12日にシカゴ市に生れ、1960年2月21日、88才の高令を以て他界した。彼は終始健康を保ち、最後の日まで豊饒としていた。彼はその臨終の日も附近にあった郵便函に自ら郵便物を取りに行ったとのことである。

チェス・ペリーは、確かにロータリアンの模範であったといえる。彼は新しきに飛びつくような性格ではなく、ロータリーについては実に慎重に理を極めて研究し、完全に納得した上で心からこれを受け入れ、そしてこれに没頭し、大いに貢献した。彼は斯かる性格の下に国際ロータリーを築き上げたため、ローターが今日の発展を来したのである。

彼は若い時代には小学校の先生を勤めてお



チェスリー R・ペリー

り、図書館の主事であり、新聞記者もやった。米西戦争には一将校として従軍し、キューバに出陣している。

チェス・ペリーは、ロータリアンとなつての2年間は修業の時代であつた。此の間彼は只管ロータリーの根本理念について研究をしていた。ロータリークラブが、一足飛びに西海岸サンフランシスコに出来、オークランドに出来、ロスアンゼルスに出来てから、今度は東端のニューヨーク市に出来るに至り、北はミネアポリスやセントポール市に、南はニューオーリアンズ市に出来る等、忽ち十数か所にクラブが出来たので、1910年に至りこれらのロータリークラブを糾合して全国連合会を造ることをポール・ハリスに進言したのがチェス・ペリーであつた。そこでその創設計画をたて、その準備にとりかかり、シカゴで第1回大会が開催された。その大会の議長はペリーであつた。此の大会で連合会が成立し、ペリーはその幹事に選ばれた。此の幹事を事務総長と改称したのは後年の事で、ペリー在職32年間の彼の職名は幹事であつた。彼は70才に達するに及び幹事の職を辞したのが1942年であつた。

彼は名利に恬淡であつて52年に及びロータリアンとしての輝かしい生活にもかかわらずRIの会長にはならず、1954年のシャトル大会において、彼を名誉事務総長の礼遇を以つて迎えんとする決議案を出したのに対し、彼はこれを固辞し、一介の会員としてシカゴ・ロータリークラブの会員として留まりたいことを告白している。

彼はシカゴ・ロータリークラブの会員たることに誇りを持ち、彼がRIの幹事の職を辞した2年後にその会長を勤めた。彼の主張であつた、RIの本拠建築物の建築の議が熟するやその委員として活躍し成功をおさめた。彼の不滅の功績の1つとして挙げなければならないものにThe Rotarianがある。彼は全国連合会の出来た翌1911年にThe National

Rotarianを発行した。これは、その翌年全国連合会が国際連合会として発展した機会にThe Rotarianと改称せられたもので、彼は創刊以来17年間にわたりその編集の任に當つていた。

彼は幹事任職中、広く南北アメリカ及び欧州を旅行した。その際、彼のロータリーに尽した功勞に対し、オーストリア、ベルギー、キューバ及びフランス国からそれぞれ勲章を授与せられた。

彼は一社会人としても色々な社会事業に参与して、各種の委員長、理事長として活動している。チェス・ペリーは、ロータリーのためには、時間とか、休日又は祭日というようなことは考えたことはなかつたようである。ロータリーは実に彼の生活であつた。その性格は、彼と共に親しく働いたことのない多くの人には、彼は冷淡で無表情な人だと誤解されていることもあるが、事実、彼は非常に温情の人であり、同僚に対して寛恕であり、感受性に富んでいた。

総てのロータリアンはチェス・ペリーの不滅の業蹟の受益者といわなければならない。この遺された遺産を引継ぐ我等は、引きつづきこれをよりよく築き上げなければならないであろう。

追 補

4月号の「ラッグルの回顧録」の中で、ポール・ハリスの若い時には有鬚の美男子云々という記事について、それを証明する資料がない、と書いたが、一つだけ発見された。それは彼がシカゴで弁護士を開業した1896年の写真である。1891年、彼が大学を卒業した時には、まだ無鬚であり、ロータリーが生れた1905年にははや鬚はなくなっている。結局彼が鬚をはやしたのは5年間の放浪生活中の産物のようなのである。